

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	立体造形演習			
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号			
3	授	業	時	数	20	7	期	前期			
4	開	講	学	年	1学年	8	選	択・必			
							修	必修			
10	担	当	氏	名	連尾 泰史	9	授	業	形	態	演習
			資	格			所	属			
			実	務	経		験	建築設計事務所勤務5年、自営業(建築デザイン)12ねん、熊本YMCA学院講師10年			
11	教	科	書	講師作成資料							
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等										
13	科 目 の 概 要		鉛筆描画することによって、「物」の本質に迫る。 立体構成によって空間と平面を把握する。								
14	科 目 の 到 達 目 標		建築技術者として、素朴に人間の手が作り出す発見とよこびを学ぶとともに、教養として、アートとしての デッサン力と色彩感覚を身に着ける。								
15	科 目 の 必 須 条 件		自由で活発な創造性に富んだ作品を創り上げ、期限に間に合うように提出する。								
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準		<p>作品評価:80% 製作に取組む姿勢、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: karouじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)</p>								
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	自宅から学園までの行程イラスト
										②	紙による立体工作
										③	キュビクル製作(図面)
										④	キュビクル製作(組立)
										⑤	素描の練習・鉛筆描写
										⑥	○△□の平面構成①
										⑦	○△□の平面構成②
										⑧	○△□の平面構成③
										⑨	立方体の描き方と相貫体のイメージ
										⑩	車の描写(メカニックなもの)
18	参 考 書										

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	ビジネス文書	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	4	
3	授 業 時 数	20	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	木本 原志	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	専門学校講師20数年 大学受験予備校講師30数年			
11	教 科 書	講師作成資料				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	日常性の高い、漢字力・言語力のトレーニングを行い、一般社会人としての基本的な文章表現の育成、就職試験のための作文演習を学び、ワープロソフトを使ってビジネス文書作成する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	やさしい漢字・言葉の課題チェックテストを毎回実施し、身近な話題から、ビジネス社会における文章表現の訓練を行い、作成能力を身に着ける。				
15	科 目 の 必 須 条 件	毎回のチェックテストの準備を必ず行い、日常生活で文字や言葉に興味を持つように心掛け実践する。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	定期テスト:80% 課題、授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講義の スケジュール	①	授業概要・文章の重要性			
		②	ビジネス文書概要			
		③	作文演習①			
		④	" ②			
		⑤	ビジネス文書検定問題演習①(漢数字・用語)			
		⑥	" ②(敬語表現)			
		⑦	" ③(文章表現)			
		⑧	" ④(社外文書)			
		⑨	作文演習③			
		⑩	" ④			
18	参 考 書					

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	コンピューター演習 I	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	5	
3	授 業 時 数	20	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	荒木 由起子		9 授 業 形 態	演習
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	熊本YMCA学院でコンピューター講座講師として30年以上			
11	教 科 書	よくわかるWord2010&Excel2010&PowerPoint2010				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	①1年を通してワード・エクセル・パワーポイントの機能を学ぶが、前期はワードを中心に学習する。 ②前半は画像・図形処理やビジネス文書の構成について学び、後半は、報告書や案内文等実践的な内容を取り上げる ③課題提出により習熟度の確認を行う				
14	科 目 の 到 達 目 標	・ワードの機能をマスターすると共に、社会人として必要とされる文書作成の知識や技能を身につける ・エクセルについては、前期中に表計算及びグラフ機能までを扱う				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、提出課題・や小テスト・出席状況・学習意欲を元に評価する。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価は下記の通りとする。 A: 優秀な点数で合格 (80-100) B: 申し分ない点数で合格 (70-79) C: かるうじて認められる点数で合格 (60-69) D: 合格点数に到達せず不合格(59点以下)				
17	講義のスケジュール	①	ワード Wordの基本操作・入力練習・文字の編集①(削除・挿入・コピー・移動・配置・フォント・色・網掛け・強調など)			
		②	入力練習 文字の編集②(均等割り・インデント・スタイル・ヘッダ・フッタ)・印刷			
		③	入力練習 グラフィック①(ワードアート・画像・文字効果・ページ罫線)			
		④	グラフィック②(図形・スクリーンショット・オンライン画像・SmartArt) 小テスト①			
		⑤	ビジネス文書基礎① 作表			
		⑥	ビジネス文書基礎② 表の編集			
		⑦	練習問題 小テスト②			
		⑧	エクセル 計算式基礎①(四則演算・構成比・基本関数)・書式			
		⑨	計算式基礎②(IF)・書式			
		⑩	グラフ作成			
18	参 考 書					

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	コンピューター演習Ⅱ	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	6	
3	授 業 時 数	20	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	荒木 由起子		9 授 業 形 態	演習
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	熊本YMCA学院でコンピューター講座講師として30年以上			
11	教 科 書	よくわかるWord2010&Excel2010&PowerPoint2010				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	①エクセルの3機能(表計算・グラフ・データベース)の基本を身に付ける ②パワーポイントの基本機能を理解し、スライドを手早く作成する練習を行う ③実際にプレゼンテーションを行うことで、伝わりやすい視覚資料・話し方を理解する				
14	科 目 の 到 達 目 標	エクセルとパワーポイントの機能をマスターし、就職後必要とされる一般的な技術を身につける				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、授業中の課題及び小テスト、出席状況、学習意欲を元に評価する。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価は下記の通りとする。 A: 優秀な点数で合格(80-100) B: 申し分ない点数で合格(70-79) C: かるうじて認められる点数で合格(60-69) D: 合格点数に到達せず不合格(59点以下)				
17	講 義 の スケジュール	①	ワード 前期復習			
		②	エクセル 前期復習			
		③	データベース①			
		④	データベース② ワードとの連携			
		⑤	ワード・エクセル小テスト			
		⑥	パワーポイント 基本操作①(書式・スタイル)			
		⑦	基本操作②(アニメーション・スライドショー)			
		⑧	個人プレゼン作成			
		⑨	"			
		⑩	プレゼン発表会			
18	参 考 書					

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	ビジネスマナー I	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	7	
3	授 業 時 数	20	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	藤井 祥子	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	専門学校講師11年			
11	教 科 書	実社会で求められるビジネスマナー				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	社会生活を行う上で必要なビジネスマナーを、講義と実習を通して習得し、マナーの根底にある相手への思いやりの心もあわせて学ぶ。また、就職活動での基本的なマナーも習得する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	ビジネスの場での基本的なマナーを知り、身に付ける。また、就職活動に自信をもって臨める自分作りを目標とする。				
15	科 目 の 必 須 条 件	授業で学習したことを意識的に行うことで、マナーがしっかりと定着するので、日常的に実践を心掛ける。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	定期テスト:80% 課題、授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講義のスケジュール	①	マナーの大切さ、コミュニケーションスキルについて			
		②	コミュニケーション・挨拶と返事①			
		③	" ②			
		④	印象の重要性について・身だしなみ			
		⑤	好ましい言葉づかい①			
		⑥	" ②			
		⑦	電話対応の基本			
		⑧	電話対応(取り次ぎ・伝言)			
		⑨	電話対応(ケーススタディ)			
		⑩	報告・連絡・相談の仕方①			
18	参 考 書					

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	ビジネスマナーⅡ										
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号										
3	授	業	時	数	20	7	期	後期										
4	開	講	学	年	1学年	8	選	択・必										
10	担	当	氏	名	藤井 祥子	9	授	業	形	態	講	義						
			資	格							所	属						
			実	務	経	験	専	門	学	校	講	師	11	年				
11	教	科	書	実社会に求められるビジネスマナー														
12	関											連	資	格	・	検	定	等
13	科		目		の		概		要			社会生活を行う上で必要なビジネスマナーを、講義と実習を通して修得する。マナーの根底にある相手への思いやりの心もあわせて学び、就職活動での基本的なマナーを修得する。						
14	科		目		の		到		達			目			標			
											ビジネスの場での基本的なマナーを知り、身に付ける。また、就職活動に自信をもって臨める自分作りを目的とする。							
15	科		目		の		必		須			条			件			
											授業で学習したことを意識的に行うことで、マナーがしっかりと定着するので、日常的に実践を心掛ける。							
16	成		績		評		価		お			よ			び			
											定期テスト:80% 課題、授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)							
17	講		義		の		ス		ケ			ジ			ュ			
											①		紹介のマナー・自己紹介					
											②		就職活動の基本マナー①					
											③		就職活動準備(自己分析)①					
											④		就職活動準備(グループワーク)					
											⑤		就職活動準備(自己確認・リハーサル)					
											⑥		就職活動準備(自己確認・ビデオ収録)					
											⑦		就職活動準備(グループワーク)					
											⑧		より良い人間関係づくり①					
											⑨		自己表現①					
											⑩		冠婚葬祭のマナー					
18	参		考		書													

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	就職対策講座 I		
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	9		
3	授 業 時 数	20	7	期	後期		
4	開 講 学 年	1学年	8	選 択 ・ 必 修	必修		
10	担 当 教 員	氏 名	吉田 美華	9	授 業 形 態	講義	
		資 格				所 属	
		実 務 経 験	専門学校講師歴20年以上				
11	教 科 書						
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等						
13	科 目 の 概 要	就職する事の意義を理解し、自分と職業を知り、具体的に目指す企業にアプローチする。最終的に就職試験で合格を得るまでの流れで授業を行なう。					
14	科 目 の 到 達 目 標	自分で選択した就職先で良き社会人として積極的に生きることができる人材を育成する。					
15	科 目 の 必 須 条 件	すべての授業に出席し、目的意識を持ち授業に取り組む。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	課題: 80% 授業態度、出席率: 20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講義のスケジュール	①	就職活動の心構え(なぜ就職するのか)				
		②	" (企業が求める人材とは)				
		③	" (身だしなみ)				
		④	就職活動の流れ				
		⑤	就職活動のルールと諸注意				
		⑥	自分と職業を理解する(自分を知る)				
		⑦	" (ライフスタイルを考える)				
		⑧	自己PR文書作成①				
		⑨	" ②				
		⑩	職業を知る(業種と職種)				
18	参 考 書						

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	就職対策講座Ⅱ		
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	10		
3	授 業 時 数	20	7	期	前期		
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修		
10	担 当 教 員	氏 名	園 田 進	9	授 業 形 態	講義	
		資 格				所 属	
		実 務 経 験	専門学校講師歴20年以上				
11	教 科 書						
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等						
13	科 目 の 概 要	就職する事の意義を理解し、自分と職業を知り、具体的に目指す企業にアプローチする。最終的に就職試験で合格を得るまでの流れで授業を行なう。					
14	科 目 の 到 達 目 標	自分で選択した就職先で良き社会人として積極的に生きることができる人材を育成する。					
15	科 目 の 必 須 条 件	すべての授業に出席し、目的意識を持ち授業に取り組む。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	課題:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講義のスケジュール	①	1. 就職試験に必要な準備(書類提出)				
		②	2. 履歴書作成①				
		③	" ②				
		④	5. 就職試験のマナー(頭髪・服装など)				
		⑤	6. アポイントメントの取り方(電話のかけ方)				
		⑥	7. 面接の受け方(入室・姿勢・退室)				
		⑦	8. 面接の受け方(言葉遣い・自己PR)				
		⑧	9. 試験対策(1面接試験問答作成)				
		⑨	10. 模擬面接練習＋一般常識対策①				
		⑩	作文適正検査(就職作文の書き方)				
18	参 考 書						

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	教養講座 I	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	11	
3	授 業 時 数	40	7	期	通年	
4	開 講 学 年	1学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	吉田 美華	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	専門学校講師歴20年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	学内で開催される諸行事を教養講座と位置付け、各専門領域に捉われず、キャンプやその他のさまざまな経験をする。				
14	科 目 の 到 達 目 標	この教養講座は学生の人間形成に寄与するものであり、机上の学びではなく、さまざまな体験を通して学ぶ機会とする。				
15	科 目 の 必 須 条 件	学内で開催される諸行事の目的を理解し、他者とともに協力しながら企画から携わり、積極的に関わりを持つ事が大切である。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	課題・レポート:50% 授業態度、出席率:50% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講義の スケジュール	①	卒業生講話①			
		②	" ②			
		③	" ③			
		④	" ④			
		⑤	建築見学①			
		⑥	" ②			
		⑦	" ③			
		⑧	" ④			
		⑨	" ⑤			
		⑩	" ⑥			
		⑪	クラスキャンプ①			
		⑫	" ②			
		⑬	" ③			
		⑭	" ④			
		⑮	" ⑤			
		⑯	" ⑥			
		⑰	" ⑦			
		⑱	" ⑧			
		⑲	スポーツデイ①			
		⑳	" ②			
18	参 考 書					

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	教養講座Ⅱ	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	12	
3	授 業 時 数	40	7	期	通年	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	吉田 美華	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	専門学校講師歴20年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	学内で開催される諸行事を教養講座と位置付け、各専門領域に捉われず、キャンプやその他のさまざまな経験をする。				
14	科 目 の 到 達 目 標	この教養講座は学生の人間形成に寄与するものであり、机上の学びではなく、さまざまな体験を通して学ぶ機会とする。				
15	科 目 の 必 須 条 件	学内で開催される諸行事の目的を理解し、他者とともに協力しながら企画から携わり、積極的に関わりを持つ事が大切である。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	課題・レポート:50% 授業態度、出席率:50% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講義のスケジュール	①	卒業生講話①			
		②	" ②			
		③	" ③			
		④	" ④			
		⑤	" ⑤			
		⑥	建築見学①			
		⑦	" ②			
		⑧	" ③			
		⑨	" ④			
		⑩	" ⑤			
		⑪	クラスキャンプ①			
		⑫	" ②			
		⑬	" ③			
		⑭	" ④			
		⑮	" ⑤			
		⑯	" ⑥			
		⑰	" ⑦			
		⑱	" ⑧			
		⑲	スポーツデイ①			
		⑳	" ②			
18	参 考 書					

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	建築史	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	14	
3	授 業 時 数	24	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	赤星 文比古	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	赤星建築都市設計研究所
		実 務 経 験	建築設計業務28年			
11	教 科 書	コンパクト版 建築史 日本・西洋				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	建築士等				
13	科 目 の 概 要	西洋建築史では、大空間を生み出した構造上の工夫にも触れ、デザインする際の空間構成の特徴にも言及しながら、各時代の建築の特徴を学びます。また日本建築史については住宅建築・社寺建築の歴史の変遷を理解し、日本の建築文化の特徴について考える。				
14	科 目 の 到 達 目 標	西洋建築の基本的語彙の修得。構造や意匠上の特色の理解。時代を代表する建築の特徴の理解などを通して、建築設計や講法に対する考え方を学ぶ。1級、2級建築士試験の歴史部分に関する基本的な事項を含んでいることは勿論です。この科目を受講することで、研修旅行が更に実りあるものになってくれることを願う。				
15	科 目 の 必 須 条 件	下に示した進度は、テキスト全てに眼を通すための目安で写真の後の解説を少し読んで貰うと判るが、毎回の分を全部解説することは不可能である。読むだけでも時間が足りない。そこで、分からない語句について、建築大辞典などで予め調べておくこと。また授業時間内では、その項目内の重要な建物のみ解説となることを了解しておいて欲しい。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ジ ュ ール	①	西洋建築史について 西洋建築の特質について			
		②	古代西アジアの建築			
		③	古代ギリシアの建築			
		④	古代ローマの建築			
		⑤	初代キリスト教・ビザンチン・イスラム建築			
		⑥	ロマネスク建築			
		⑦	ゴシック建築			
		⑧	ルネサンス建築			
		⑨	バロック建築			
		⑩	ロココとネオ・クラシズム			
		⑪	ネオ・ゴシック以降			
		⑫	日本建築史について 日本建築の特質について			
18	参 考 書					

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	計画 I			
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号			
3	授	業	時	数	7	期		前期			
4	開	講	学	年	8	選	択	・			
								必修			
10	担	当	氏	名	矢野	め	ぐ	み			
			資	格	一級	建	築	士			
			実	務	経	験	設計事務所にて10年以上、建築会社にて10年以上 熊本YMCA学院講師5年以上				
9	授	業	形	態	講義						
					所	属					
11	教	科	書	初めて学ぶ建築計画							
12	関	連	資	格	・	検	定	等			
								建築士等			
13	科	目	の	概	要						
					建築はに人間生活の器で、人々の様々な要求を満足させるものではなくてはならない。そのことを踏まえて、この計画 I の授業では住宅を中心にして人間の要求を分析し、どのような建築空間を創造すれば良いのかを学ぶ。						
14	科	目	の	到	達						
					目標						
					建築計画における基礎的な要素を理解し、建築物を合理的に企画・計画し実践できる能力を養う。						
15	科	目	の	必	須						
								条件			
					課題は期限まで必ず提出し、各種のデザインやエスキスなどに必要なデータ収集に心掛けること。						
16	成	績	評	価	お	よ	び	評			
								価			
								基			
								準			
					定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)						
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル		
										①	住宅の形態と風土
										②	住宅の歴史・生活様式と住居の変遷
										③	住宅の機能①
										④	住宅の機能②
										⑤	住宅の機能③
										⑥	住宅の機能④
										⑦	各部の計画、内部空間の構成①
										⑧	各部の計画、内部空間の構成②
										⑨	各部の計画、内部空間の構成③
										⑩	各部の計画、内部空間の構成④
										⑪	バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザインの研究①
										⑫	バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザインの研究②
										⑬	バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザインの研究③
										⑭	住宅設計 創造と模索のプロセス①
⑮	住宅設計 創造と模索のプロセス②										
18	参	考	書								

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	計画Ⅱ	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	16	
3	授 業 時 数	30	7	期	後期	
4	開 講 学 年	1学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	矢野 めぐみ	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	設計事務所にて10年以上、建築会社にて10年以上 熊本YMCA学院講師5年以上			
11	教 科 書	初めて学ぶ建築計画				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	建築士等				
13	科 目 の 概 要	各種の建築物、とくに集合住宅、学校・図書館・事務所・劇場など要求に応えられる空間形成の基本を学習する。毎講義のテーマの中から意匠のエスキースの習熟を図るためのトレーニング実施する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	各種建築物の要求に対応できるように、複雑多岐に亘る問題を分析し空間創造の技を習得する。				
15	科 目 の 必 須 条 件	設計資料集成の持参とチェック、トレーニング課題の練習を計画的に進めることが必要である。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ジ ュ ー ル	①	集合住宅建築(環境計画)			
		②	集合住宅建築(配置計画)			
		③	集合住宅建築(住戸計画)			
		④	学校建築(カリキュラムとブロックプラン)			
		⑤	学校建築(教室計画)①			
		⑥	学校建築(教室計画)②			
		⑦	学校建築(オープンスクール、新しい学校建築)			
		⑧	図書館建築(計画のポイント)			
		⑨	図書館建築(閲覧室計画等)			
		⑩	図書館建築(書架の計画)			
		⑪	図書館建築(メディアテイクとしての役割)			
		⑫	事務所建築(概念とシステム)			
		⑬	事務所建築(オフィスレイアウト)			
		⑭	事務所建築(インテリジェントビルと造形)			
		⑮	劇場等建築(既存演劇、映画、古典芸能プラン検討)			
18	参 考 書					

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	環境工学 I	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	17	
3	授 業 時 数	24	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	園 田 進	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	専門学校講師歴20年以上			
11	教 科 書	初めての建築環境				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	環境工学は建築計画を行う際、自然環境に密接にかかわる基本原論とも言うべき基礎である。環境設計における各要素(気候・採光と照明)の役割を述べる。また各章ごとに演習問題を解くとともに、環境要素の測定法を学び、人に快適な環境を創り出すための有効な手法を身に付けてもらう。				
14	科 目 の 到 達 目 標	環境工学は、社会に出てから、建築分野での一般知識となるものが多く、なるべく記憶に残るような授業とする。卒業後、1・2級建築士等の資格試験を受けるべく再勉強する際、学校で習ったことがあると言ってくれば幸いである。				
15	科 目 の 必 須 条 件	環境工学の基礎知識をなるべく記憶の留めてもらえる様、こちらの一方通行の説明だけでなく、事前に予習をして対話形式で授業を進めていきたい。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講義のスケジュール	①	環境工学概論			
		②	気候(概論)			
		③	"(空気)			
		④	"(外界気候)			
		⑤	"(快適気候)			
		⑥	"(日照)			
		⑦	"(日影)			
		⑧	"(日射・輻射等)			
		⑨	"(日照調整計画)			
		⑩	採光と照明(概論・光の特性)			
		⑪	"(昼光率)			
		⑫	"(最高計画・証明計画)			
18	参 考 書					

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	環境工学Ⅱ						
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号						
3	授	業	時	数	24	7	期	後期						
4	開	講	学	年	1学年	8	選	択・必						
							修	必修						
10	担	当	氏	名	園田 進	9	授	業	形	態	講義			
			資	格			所	属						
			実	務	経		験	専	門	学	校	講	師	歴
11	教	科	書	初	め	て	の	建	築	環	境			
12	関	連	資	格	・	検	定	等						
13	科	目	の	概	要	環境工学は建築計画を行う際、自然環境に密接にかかわる基本原論とも言うべき基礎である。環境設計における各要素(熱と換気・音・色)の役割を述べる。また各章ごとに演習問題を解くとともに、環境要素の測定法を学び、人に快適な環境を創り出すための建築有効な手法を身に付けてもらう。								
14	科	目	の	到	達	目	標	環境工学は、社会に出てから、建築分野での一般知識となるものが多く、なるべく記憶に残るような授業とする。卒業後、1・2級建築士等の資格試験を受けるべく再勉強する際、学校で習ったことがあると言ってもいい。						
15	科	目	の	必	須	条	件	環境工学は、基礎知識をなるべく記憶の留めてもらえる様、こちらの一方通行の説明だけでなく、事前に予習をして対話形式で授業を進めていきたい。						
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)		
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	①	熱と換気(概論)				
									②	" (伝熱①熱伝導率)				
									③	" (伝熱②熱貫流率等)				
									④	" (伝熱③断熱、保温効果等)				
									⑤	" (屋内気候①熱容量、相当温度等)				
									⑥	" (屋内気候②室内空気のごれ、快適な室内)				
									⑦	" (大気汚染)				
									⑧	" (結露)				
									⑨	音(概論・音の性質)				
									⑩	" (吸音としゃ音)				
									⑪	" (音響計画、反響と残響)				
									⑫	色(概論・色の表示・色の甲か・色彩計画)				
18	参	考	書											

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	設備	
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号	
3	授	業	時	数	48	7	期	通年	
4	開	講	学	年	2学年	8	選	択・必	
								修	
10	担	当	氏	名	山下 郁利	9	所	属	
			資	格	設備設計一級建築士				(株)グリーン設計
			実	務	経				験
11	教	科	書	基礎講座 建築設備					
12	関	連	資	格・検	定	等	建築士等		
13	科	目	の	概	要	建築設備は、保健衛生的で、より快適な室内環境をつくり、建物の機能を向上させるために欠くことのできないものであり、最近の建物ではますますその重要性が高まってきている。授業では、空気調和設備・給排水・衛生設備、電気設備の計画・設計について基本的な事項を述べる。			
14	科	目	の	到	達	目	標	建築技術者の常識として、最低限必要な建築設備の計画・設計について、その基本的な知識を習得する。	
15	科	目	の	必	須	条	件	建築における建築設備の必要性、役割を理解すること。	
16	成績評価および評価基準		定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)						
17	講義の スケジュール	①	給水設備						
		②	給湯設備						
		③	排水・通気設備①						
		④	排水・通気設備②						
		⑤	衛生器具設備①						
		⑥	衛生器具設備②						
		⑦	し尿浄化槽設備①						
		⑧	し尿浄化槽設備②						
		⑨	消火設備①						
		⑩	消火設備②						
		⑪	ガス設備						
		⑫	空気の性質と空気線図①						
		⑬	熱負荷と装置容量						
		⑭	空調方式と熱源方法①						
		⑮	空調方式と熱源方法②						
		⑯	空気調和設備の計画と設計①						
		⑰	空気調和設備の計画と設計②						
		⑱	送風系統・換気・排煙						
		⑲	電気設備の基礎知識①						
		⑳	電気設備の基礎知識②						
		㉑	照明・配線設計と施工						
		㉒	音源設備						
		㉓	防火設備						
		㉔	通信・信号・エレベーター設備						
18	参	考	書						

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	法規 I			
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号			
3	授	業	時	数	24	7	期	前期			
4	開	講	学	年	2学年	8	選	択・必			
							修	必修			
10	担	当	氏	名	矢野 めぐみ	9	授	業	形	態	講義
			資	格			所	属			
			実	務	経		験	設計事務所にて10年以上、建築会社にて10年以上 熊本YMCA学院講師5年以上			
11	教	科	書	建築関係法令集							
12	関	連	資	格・検	定等	建築士等					
13	科	目	の	概	要	理解しにくい学科であるため平易に具体的事例を示し、興味が持てるよう授業を進める。建築士を目指すには必ず知っておかなければならない科目である。本科目内容としては、建築基準法と関連法規について講義する。詳細を理解するためには十分な時間ではないが、将来的に2級建築士に合格することも目標に置く。					
14	科	目	の	到	達	目	標	建築関係の法令の読解力の養成につとめる。 卒業後は建築関連の建築士事務所、施工現場等において、当学院卒の建築士としての誇りをもって業務ができることを期待している。			
15	科	目	の	必	須	条	件	建築士を目指す者にとって、建築基準法をはじめ、建築関連法規を理解することは極めて重要であることを認識して、私語、居眠りを慎み、真剣に受講してもらいたい。卒業後は、2級建築士試験に合格するよう期待している。			
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準
											定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	建築関係法規概論・建築基準法の目的及び用語の定義等
										②	建築物等に関する申請及び確認、検査等の規定
										③	建築物の敷地、構造及び設備等の規定
										④	防火壁、耐火建築物等の規定
										⑤	居室の採光及び換気等の規定
										⑥	都市計画区域等における建築物の敷地と道路及び構造等の規定
										⑦	用途地域等の規定
										⑧	容積率、建ぺい率等の規定
										⑨	日影規制等中高層建築物の規定
										⑩	防火、準防火地域内の建築物の規定
										⑪	建築協会等及び関係法令
										⑫	罰則等の規定
18	参	考	書								

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	法規Ⅱ	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	21	
3	授 業 時 数	24	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	矢野 めぐみ	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	設計事務所にて10年以上、建築会社にて10年以上 熊本YMCA学院講師5年以上			
11	教 科 書	建築関連法令集				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	建築士等				
13	科 目 の 概 要	理解しにくい学科であるため平易に具体的事例を示し、興味が持てるよう授業を進める。 法規Ⅰで学んだ、建築基準法と関連法規と同様に、法規Ⅱ(2年後期)では、法令と関係法令を主に講義する。詳細に理解するには時間不足と思われるが、2級建築士合格レベル確保に目標をおく。				
14	科 目 の 到 達 目 標	建築関係の法令の読解力の養成につとめる。 卒業後は建築関連の建築士事務所、施工現場等において、当学院卒の建築士として誇りをもって業務ができることを期待している。				
15	科 目 の 必 須 条 件	建築士を目指す者にとって、建築基準法をはじめ、建築関連法規を理解することは極めて重要であることを認識して、私語、居眠りを慎み、真剣に受講してもらいたい。卒業後は、即2級建築士試験に合格するよう期待している。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かなりうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講義のスケジュール	①	法規Ⅰ復習、法の解説及び類似練習問題			
		②	建築関係手続き問題(申請等)			
		③	単体規定、集団規定の概要と復習			
		④	建築物の一般構造、構造強度			
		⑤	建築物の防火避難設備等の規定			
		⑥	建築物の防火内装等			
		⑦	建築物の面積、及び各部分の高さ等の規定			
		⑧	建築設備(給排水、昇降機、避難、避雷設備等)			
		⑨	建築物の防火排烟、非常用照明、非常用進入口等			
		⑩	工作物等の規定・建築士法及び関係法令			
		⑪	関係法令(都市計画法)			
		⑫	" (消防法、耐震法)・(住宅品確法、ハートビル法等)			
18	参 考 書					

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	構造力学Ⅱ						
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号						
3	授	業	時	数	48	7	期	後期						
4	開	講	学	年	1学年	8	選	択・必						
							修	必修						
10	担	当	氏	名	園	田	進	9	授	業	形	態	講	義
			資	格						所				
			実	務	経	験	専門学校講師歴20年以上							
11	教	科	書	図解レクチャー 構造力学 静定・不静定構造を学ぶ										
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等													
13	科 目 の 概 要 構造力学の基本事項である静定ラーメン、静定トラス、断面の諸係数、部材の諸応力度を説明し、数多くの関連演習問題を解説する。													
14	科 目 の 到 達 目 標 建築物は、物品・人間および自重を支えながら、地震力・風圧力・雪・荷重などさまざまな外力を受けている。これらの外力が建築物に作用したとき、その骨組みや地盤にどのような力が働くのかを学ぶ。													
15	科 目 の 必 須 条 件 内容が理解できない場合、フィードバックし再チャレンジする。これを繰り返すことによって問題が解け、応用ができるようになります。諦めず、粘り強く勉強することを望みます。													
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準 定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)													
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	静定ラーメン(ラーメンの意義)			
										②	" (静定ラーメンの種類)			
										③	" (静定ラーメンの解法)			
										④	" (静定ラームの解法順序)			
										⑤	静定トラス(トラスの概説)			
										⑥	" (トラスのつり合い)			
										⑦	" (静定トラスの解法)			
										⑧	" (トラス解法の種類)			
										⑨	" (クレモナ図解法)			
										⑩	" (節点のつり合い条件による 算式解法)			
										⑪	" (切断法による算式解法)			
										⑫	" (トラス解法上の参考事項)			
										⑬	断面の諸係数(断面1次モーメント)・(重心・図心)			
										⑭	" (断面2次モーメント)			
										⑮	断面の諸係数(断面係数)・(断面2次半径)			
										⑯	部材の諸応力度(応力および応力度)			
										⑰	" (垂直、引張、圧縮応力度)			
										⑱	" (ひずみおよびひずみ度)			
										⑲	" (縦ひずみ度と横ひずみ度)			
										⑳	" (ポアソン数とポアソン比)・(弾性係数・ヤング係数)			
										㉑	" (許容応力度と安全率)			
										㉒	" (温度応力度)			
										㉓	" (梁の諸応力度・曲げ)①			
										㉔	" (梁の諸応力度・せん断)①			
18	参 考 書													

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	構造力学Ⅲ	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	24	
3	授 業 時 数	24	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	富田 孝一	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	県立工業高校建築科教諭及び実習教師42年			
11	教 科 書	図解レクチャー 構造力学 静定・不静定構造を学ぶ				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	建築士等				
13	科 目 の 概 要	柱・はりの変形・モールの定理と不静定梁について講義する。各単元では講義、基本計算問題、応用計算問題の順に取り組む。				
14	科 目 の 到 達 目 標	構造物に作用する力と応力の問題を科学的に考えさせ、理解させることを主眼とした。方針として力学的な考察力、判断力と問題解決の直観力を養い、基礎的な計算能力を持たせたい。				
15	科 目 の 必 須 条 件	教科書は極めて懇切丁寧な内容をもっているため、最適な参考書と考えて、予習復習の教材として積極的な活用を望む。授業の節目毎に簡単なテストをするので授業を真面目に受けることが大切。その蓄積が実力となることを理解してもらいたい。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ジ ュ ー ル	①	柱の概説・短柱と長柱・座屈・座屈荷重と座屈応力度			
		②	オイラーの公式			
		③	たわみ曲線・たわみ・たわみ角①			
		④	" ②			
		⑤	単純梁とモールの定理①			
		⑥	" ②			
		⑦	片持梁とモールの定理①			
		⑧	" ②			
		⑨	不静定梁・たわみ公式による解法①			
		⑩	" ②			
		⑪	不静定梁・たわみ角公式による解法①			
		⑫	" ②			
18	参 考 書					

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	構造力学Ⅳ					
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号					
3	授	業	時	数	24	7	期	後期					
4	開	講	学	年	2学年	8	選	択・必					
10	担	当	氏	名	富田 孝一	9	授	業	形	態	講義		
			資	格			所	属					
			実	務	経		験	県立工業高校建築科教諭及び実習教師42年					
11	教	科	書	図解レクチャー 構造力学 静定・不静定構造を学ぶ									
12	関	連	資	格・検	定	等						建築士等	
13	科	目	の	概	要	不静定構造物の解法である、たわみ角法と固定モーメント法の2つを講義する。具体的には各解法の基礎的な内容を講義し、基本計算問題、応用計算問題の順で解くことで、レベルアップを図る。不静定構造物の解法は、静定構造物の解法の上に成り立っていることから、必要に応じて、静定構造物の解法も復習する。							
14	科	目	の	到	達	目						標	構造物に作用する力と応力の問題を科学的に考えさせ、理解させることを主眼とした。方針として力学的な考察力、判断力と問題解決の直観力を養い、基礎的な計算能力を持たせたい。
15	科	目	の	必	須	条						件	教科書は極めて懇切丁寧な内容をもっているため、最適参考書と考えて、予習復習の教材として積極的な活用を望む。授業の節目毎に簡単なテストをするので授業を真面目に受けることが大切。その蓄積が実力となることを理解してもらいたい。
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)	
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	不静定ラーメンの概略		
										②	たわみ角法の考え方①		
										③	たわみ角法問題①		
										④	” ②		
										⑤	” ③		
										⑥	固定モーメント法の考え方①		
										⑦	固定モーメント法問題①		
										⑧	” ②		
										⑨	” ③		
										⑩	長方形ラーメンの応力略算①		
										⑪	” ②		
										⑫	耐震設計		
18	参	考	書										

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	木構造		
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号		
3	授	業	時	数	7	期	通	年		
4	開	講	学	年	8	選	択	・		
								必		
								修		
10	担	当	氏	名	坂	口	大	9		
			資	格					所	
			実	務	経	験	坂口建築都市設計事務所にて設計監理者として19年以上			
								講		
								義		
								属		
								坂口建築都市設計事務所		
11	教	科	書	木造住宅構法 第三版						
12	関	連	資	格	・	検	定	等		
								建		
								築		
								士		
								等		
13	科	目	の	概	現在の日本において、住宅を中心に広く普及している木構造の構法を講義する。基礎・地業から骨組の構造、仕上げまでの一連の流れに沿って説明する。					
14	科	目	の	到	達					
					目標					
					木構造は、建築学の基礎の1つであるので、十分理解し、将来にそなえて実力をつけて欲しい。					
15	科	目	の	必	須					
					条件					
					木構造の部材名称、間隔、断面の大きさなどを理解する。					
16	成	績	評	価	および					
					評価基準					
					定期テスト:80%					
					授業態度、出席率:20%					
					成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。					
					A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80)					
					B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70)					
					C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60)					
					D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー		
									①	一般構造
									②	基礎と地業・地質調査
									③	標準貫入試験・地業の形式
									④	くい基礎・根切りと山止め
									⑤	木構造の基礎
									⑥	耐震耐風計画
									⑦	軸組(壁の骨組)
									⑧	筋かい
									⑨	床組①
									⑩	床組②
									⑪	小屋組
									⑫	継手と仕口
									⑬	屋根の形式
									⑭	屋根の葺き方
									⑮	ろく屋根・雨仕舞・樋
									⑯	天井
									⑰	内壁
									⑱	外壁
									⑲	床仕上げ
									⑳	階段
									㉑	和室の造作
									㉒	左官・塗装
									㉓	建具
㉔	金物									
18	参	考	書							

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	鉄筋コンクリート構造							
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号							
3	授	業	時	数	24	7	期	前期							
4	開	講	学	年	2学年	8	選	択・必							
							修	必修							
10	担	当	氏	名	園	田	進	9	授	業	形	態	講	義	
			資	格						所	属				
			実	務	経	験	専門学校講師歴20年以上								
11	教	科	書	講師作成資料											
12	関	連	資	格・検	定	等									
13	科	目	の	概	要	鉄筋コンクリート構造の基本的性質と、設計理論について講義する。設計方法は許容度応力設計法と、終局強度設計法の2本立てであるが、基本と考えられる許容応力度設計法に主力をおく。									
14	科	目	の	到	達	目	標	鉄筋コンクリート各部材の力学的性質について、十分に理解する。							
15	科	目	の	必	須	条	件	構造力学の基礎的な計算、建築材料で学んだ材料の特性を十分に理解した上で授業に臨むこと。							
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)			
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	概論				
										②	鉄筋コンクリート構造の基礎知識①				
										③	" ②				
										④	" ③				
										⑤	" ④				
										⑥	曲げを受けるはり①				
										⑦	" ②				
										⑧	" ③				
										⑨	" ④				
										⑩	曲げと軸方向力を受ける柱①				
										⑪	" ②				
										⑫	" ③				
18	参	考	書												

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	鉄筋コンクリート構造演習							
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号							
3	授	業	時	数	24	7	期	後期							
4	開	講	学	年	2学年	8	選	択・必							
10	担	当	氏	名	園田 進	9	授	業	形	態	演習				
			資	格			所	属							
			実	務	経		験	専	門	学	校	講	師	歴	20
11	教	科	書	講師作成資料											
12	関	連	資	格・検	定	等									
13	科	目	の	概	要	鉄筋コンクリート構造の基本的性質と、設計理論について講義する。設計方法は許容度応力設計法と、終局強度設計法の2本立てであるが、基本と考えられる許容応力度設計法に主力をおく。									
14	科	目	の	到	達	目	標	鉄筋コンクリート各部材の力学的性質について、十分に理解する。							
15	科	目	の	必	須	条	件	構造力学の基礎的な計算、建築材料で学んだ材料の特性を十分に理解した上で授業に臨むこと。							
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)			
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	せん断力を受けるはりおよび柱①				
										②	" ②				
										③	" ③				
										④	付着・定着および接合部①				
										⑤	" ②				
										⑥	耐震壁①				
										⑦	" ②				
										⑧	スラブおよび階段①				
										⑨	" ②				
										⑩	基礎				
										⑪	構造設計①				
										⑫	" ②				
18	参	考	書												

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	材料実験			
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号			
3	授	業	時	数	7	期		前期			
4	開	講	学	年	8	選	択	・			
								必修			
10	担	当	氏	名	大川原	伸	夫	9			
			資	格					授		
			業	形					態		
			実	務	経	験	専	門			
								学			
								校			
								講			
								師			
								歴			
								2			
								0			
								以			
								上			
11	教	科	書					講			
								師			
								資			
								料			
12	関	連	資	格	・	検	定	等			
13	科	目	の	概	要	建築構造として、一般的な鉄筋コンクリート造の主要材料である、鉄筋、コンクリートの基本的物理的性状実験を行う。					
14	科	目	の	到	達	目	標	「材料実験」の意義は、材料に直接触れてためすこと、それ自体にある。又、各実験を通して、身近に各材料の特性を学習、理解することを目的とする。			
15	科	目	の	必	須	条	件	本科目は、実験の方法と結果の意味するものが大事であって、これを正しく判断しなければ、その結果はかえって真実を誤らせることになるので、必ず記録をとることを心掛ける。			
16	成	績	評	価	お	よ	び	評			
								価			
								基			
								準			
								レ			
								ポ			
								ー			
								ト			
								提			
								出			
								し			
								率			
								:			
								2			
								0			
								%			
								成			
								績			
								評			
								価			
								と			
								点			
								数			
								の			
								関			
								係			
								は			
								下			
								記			
								の			
								通			
								り			
								あ			
								る			
								こ			
								と			
								に			
								注			
								意			
								す			
								こ			
								と			
								を			
								心			
								掛			
								け			
								る			
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー			
									ル	①	材料実験概論
										②	セメント(比重試験)
										③	" (凝結試験)
										④	" (強度試験・試験体作製)
										⑤	骨材 ふるい分け試験
										⑥	セメント強度試験(曲げ、圧縮)
										⑦	骨材 単位容積重量および実績率試験
										⑧	細骨材 比重および吸水率試験
										⑨	粗骨材 比重および吸水率試験
										⑩	セメント強度試験(曲げ、圧縮)
										⑪	コンクリート調合設計
										⑫	コンクリート供試体作製
										⑬	細・粗骨材の表面水量試験
										⑭	鉄筋引張り試験
⑮	コンクリート圧縮強度試験										
18	参	考	書								

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	建築意匠 I	
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	34	
3	授 業 時 数	24	7	期	前期	
4	開 講 学 年	1学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	坂梨 由生子	9	授 業 形 態	講義
		資 格	二級建築士、インテリアプランナー		所 属	
		実 務 経 験	商業施設設計・住宅内装企画・コーディネート等(インテリアデザイン)30年 oriri mfgで家具ディレクション8年			
11	教 科 書	超図解で全部わかる インテリアデザイン入門				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	二級建築士、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーター2級、木育インストラクター				
13	科 目 の 概 要	現在の建築意匠は、建築美学の図式で捉える立場と、建築の形態やその構成理論に関するもので存在しています。 建築家を志す学生達が、日々交わす議論や設計を巡る思考の助けとなるような基礎的知識、あるいは最低限知っておくべき理論的フレームを「意匠(design)」というエリアでわかりやすく解説する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	将来、意匠すなわち「工夫すること、趣向を凝らすこと」と「形・色・模様・配置などについての独自の工夫」を持って建築設計ができるための知識を学ぶ。				
15	科 目 の 必 須 条 件	建築に関する書物を多く読む。自分の尊敬する建築家について深く学んで欲しい。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	近代の建築(近代の変容)			
		②	" (世紀末転換期の建築)・(近代建築の3巨匠)			
		③	現代の建築(現代建築の視座)			
		④	" (合理主義)			
		⑤	" (構造・技術)			
		⑥	戦後日本の建築(都市への進出)			
		⑦	" (1980年代)			
		⑧	" (1990年代以降)			
		⑨	建築標記の射程(意図の伝達)・(思考の外在化)			
		⑩	建築の原点(自然の変化と人間による構築)・(建築理念と「原始の小屋」)			
		⑪	" (床・屋根・壁・柱・門と窓)			
		⑫	" (日本の内と外、曖昧な境界)			
18	参 考 書					

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	建築意匠Ⅱ				
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号				
3	授	業	時	数	24	7	期	後期				
4	開	講	学	年	1学年	8	選	択・必				
							修	必修				
10	担	当	氏	名	坂梨 由生子	9	授	業	形	態	講義	
			資	格			所	属				
			実	務	経	験	商業施設設計・住宅内装企画・コーディネート等(インテリアデザイン)30年 oriri mfgで家具ディレクション8年					
11	教	科	書	超図解で全部わかる インテリアデザイン入門								
12	関	連	資	格・検	定	等						二級建築士、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーター2級、木育インストラクター
13	科	目	の	概	要	現在の建築意匠は、建築美学の図式で捉える立場と、建築の形態やその構成理論に関するもので存在しています。 建築家を志す学生達が、日々交わす議論や設計を巡る思考の助けとなるような基礎的知識、あるいは最低限知っておくべき理論的フレームを「意匠 (design)」というエリアでわかりやすく解説する。						
14	科	目	の	到	達	目標						将来、意匠すなわち「工夫すること、趣向を凝らすこと」と「形・色・模様・配置などについての独自の工夫」を持って建築設計ができるための知識を学ぶ。
15	科	目	の	必	須	条件						建築に関する書物を多く読む。自分の尊敬する建築家について深く学んで欲しい。
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	
<p>定期テスト:80%</p> <p>授業態度、出席率:20%</p> <p>成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。</p> <p>A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80)</p> <p>B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70)</p> <p>C: 苦労して認められる点数で科目に合格した。(69-60)</p> <p>D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)</p>												
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	建築のかたち(かたちの基本)・(かたちの組織化)	
										②	部分と全体(調和とプロポーション)・(マイクロコスモスの思想)	
										③	光について(建築と光)	
										④	〃 (日本の光)	
										⑤	〃 (満たす光)	
										⑥	空間について(空間の位置づけ)	
										⑦	〃 (無限空間の波紋)	
										⑧	〃 (空虚と非連続な空間概念)	
										⑨	近・現代の都市(没場所性とグローバリズム)	
										⑩	〃 (産業革命と近代の都市化)・(都市のコンテクスト)	
										⑪	持続可能性と建築デザイン(持続可能性への視座)	
										⑫	〃 (省エネルギーとデザイン)	
18	参	考	書									

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	CAD I							
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号							
3	授	業	時	数	7	期		前期							
4	開	講	学	年	8	選	択	・							
						必	修	必修							
10	担	当	氏	名	本田	早	織	9	授	業	形	態	演	習	
			資	格					所						
			実	務	経	験	熊本YMCA学院で建築科CAD講師1年以上								
11	教	科	書	Jw_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013、その他講師作成資料											
12	関	連	資	格	・	検	定	等	CAD検定等						
13	科	目	の	概	要	DRA-CADやJw-AutoCADを使用し、建築意匠図を作図する。 一般図(配置・平面・立面・断面図)を作図するが、木造の作図の方法を習得する。									
14	科	目	の	到	達	目	標	CADを使用し、図面の書き方を覚える。							
15	科	目	の	必	須	条	件	卒業後、即戦力を期待される授業なので、最低でも一般図は書ける様になる。							
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	課題提出:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)			
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	配置図の作図①				
										②	" ②				
										③	木造平面図の作図①				
										④	" ②				
										⑤	" ③				
										⑥	" ④				
										⑦	木造立面図・断面図の作図①				
										⑧	" ②				
										⑨	" ③				
										⑩	木造矩計図の作図①				
										⑪	" ②				
										⑫	" ③				
18	参	考	書												

1	課 程	工業専門	5	科 目 名	CAD II		
2	学 科	建築科	6	科 目 番 号	37		
3	授 業 時 数	24	7	期	後期		
4	開 講 学 年	1学年	8	選 択 ・ 必 修	必修		
10	担 当 教 員	氏 名	本田 早織	9	授 業 形 態	演習	
		資 格				所 属	
		実 務 経 験	熊本YMCA学院で建築科CAD講師1年以上				
11	教 科 書	Jw_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013、その他講師作成資料					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	CAD検定等					
13	科 目 の 概 要	DRA-CADやJw-AutoCADを使用し、建築意匠図を作図する。 一般図(配置・平面・立面・断面図)を作図するが、RC造、S造それぞれの作図の方法を習得する。					
14	科 目 の 到 達 目 標	CADを使用し、図面の書き方を覚える。					
15	科 目 の 必 須 条 件	卒業後、即戦力を期待される授業なので、最低でも一般図は書ける様になる。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	課題提出:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講 義 の スケジュール	①	鉄筋コンクリート造平面図作図①				
		②	" ②				
		③	鉄筋コンクリート造立面図・断面図作図①				
		④	" ②				
		⑤	鉄筋コンクリート造断面詳細図の作図①				
		⑥	" ②				
		⑦	鉄骨造平面図の作図①				
		⑧	" ②				
		⑨	鉄骨造立面図・断面図の作図①				
		⑩	" ②				
		⑪	鉄骨造断面詳細図の作図①				
		⑫	" ②				
18	参 考 書						

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	CADⅢ						
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号						
3	授	業	時	数	24	7	期	前期						
4	開	講	学	年	2学年	8	選	択・必						
							修	必修						
10	担	当	氏	名	本田 早織	9	授	業	形	態	演	習		
			資	格									所	属
			実	務	経									
11	教	科	書	Jw_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013、その他講師作成資料										
12	関	連	資	格・検	定等	CAD検定等								
13	科	目	の	概	要	DRA-CADやAutoCADの3次元操作を習得する。								
14	科	目	の	到	達	目	標	建築において、3次元での建物の表現が必要であることを踏まえて、DRA-CAD・AutoCADでの3次元作図を習得する。卒業制作作品の表現方法として学ぶ。						
15	科	目	の	必	須	条	件	CADに取り組む時間を積極的に設け、学校以外でもCADをできる環境を整えて欲しい。						
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	課題提出:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)		
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	三次元の説明			
										②	三次元の基礎①			
										③	〃 ②			
										④	簡単な図形の作図①			
										⑤	〃 ②			
										⑥	高度な図形の作図①			
										⑦	〃 ②			
										⑧	〃 ③			
										⑨	建物の三次元作図①			
										⑩	〃 ②			
										⑪	〃 ③			
										⑫	〃 ④			
18	参	考	書											

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	CADIV			
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号			
3	授	業	時	数	24	7	期	後期			
4	開	講	学	年	2学年	8	選	択・必			
10	担	当	氏	名	船津 明	9	授	業	形	態	演習
			資	格			所	属			
			実	務	経		験	建	築	設	計
11	教	科	書	講師作成資料							
12	関	連	資	格・検	定等						
13	科	目	の	概	要	BIM(Building Information Modeling)操作を習得する。					
14	科	目	の	到	達	目	標	建築業界において、BIM(Building Information Modeling)の普及により習得が必要であることを踏まえて、そのオペレーションを習得する。			
15	科	目	の	必	須	条	件	CADに取り組む時間を積極的に設け、学校以外でもCADをできる環境を整えて欲しい。			
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準
			<p>課題提出:80%</p> <p>授業態度、出席率:20%</p> <p>成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。</p> <p>A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80)</p> <p>B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70)</p> <p>C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60)</p> <p>D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)</p>								
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	BIM演習①
										②	" ②
										③	" ③
										④	" ④
										⑤	" ⑤
										⑥	" ⑥
										⑦	" ⑦
										⑧	" ⑧
										⑨	" ⑨
										⑩	" ⑩
										⑪	" ⑪
										⑫	" ⑫
18	参	考	書								

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	模型・パース I									
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号									
3	授	業	時	数	7	期		前期									
4	開	講	学	年	8	選	択	・									
						必	修	必修									
10	担	当	氏	名	本田雄二	9	授	業	形	態	演	習					
			資	格							所	属					
			実	務	経						験	熊本YMCA学院建築科講師として30年以上					
11	教	科	書	講師作成資料													
12	関	連	資	格	・	検	定	等	建築模型資格等								
13	科	目	の	概	要	建築模型を製作することにより、図面の理解力と物づくりの実感を覚える。スタディ模型(モノクロ)から完成模型(着色)まで到達する。											
14	科	目	の	到	達	目	標	建築図面の理解力と立体の想像力を養成する。									
15	科	目	の	必	須	条	件	設計図を十分に理解した上で、製作工程の計画を立てること。									
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	<p>パース制作模型作品評価:80%</p> <p>パース製作に取組む姿勢、出席率:20%</p> <p>成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。</p> <p>A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80)</p> <p>B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70)</p> <p>C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60)</p> <p>D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)</p>					
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	設計図面の理解						
										②	ツールの使用方法						
										③	ボード寸法取り						
										④	カット①						
										⑤	カット②						
										⑥	屋根製作①						
										⑦	屋根製作②						
										⑧	本体製作①						
										⑨	本体製作②						
										⑩	外構(樹木などの製作)						
										⑪	外構(フェンスの製作)						
										⑫	外構(その他製作)						
18	参	考	書														

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	模型・パースⅡ				
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号				
3	授	業	時	数	24	7	期	後期				
4	開	講	学	年	1学年	8	選	択・必				
10	担	当	氏	名	本田雄二	9	授	業	形	態	演習	
			資	格			所	属				
			実	務	経		験	熊本YMCA学院建築科講師として30年以上				
11	教	科	書	講師作成資料								
12	関	連	資	格・検	定	等						建築模型資格等
13	科	目	の	概	要	パース(透視図)手法の基礎を学び、1点透視図法、2点透視図法で建物外観や内観のパースが描くことができる技術を習得する。						
14	科	目	の	到	達	目	標	現在の建築業界でクライアントへのプレゼンテーションに欠かせないパース(透視図)手法を習得する。				
15	科	目	の	必	須	条	件	完成度の高い作品ができるよう、こだわりをもって作業する。				
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	<p>パース制作模型作品評価:80%</p> <p>パース製作に取組む姿勢、出席率:20%</p> <p>成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。</p> <p>A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80)</p> <p>B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70)</p> <p>C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60)</p> <p>D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)</p>
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	パースの基礎	
										②	2点透視図法の基礎	
										③	建築外観パース作成①	
										④	建築外観パース作成②	
										⑤	建築外観パース作成③	
										⑥	建築外観パース作成④	
										⑦	建築外観パース作成⑤	
										⑧	1点透視図法の基礎	
										⑨	建築内観パース作成①	
										⑩	建築内観パース作成②	
										⑪	建築内観パース作成③	
										⑫	建築内観パース作成④	
18	参	考	書									

1	課程	工業専門	5	科目	名	製図1						
2	学	建築科	6	科目	番号	42						
3	授業	時数192	7	期	必修	必修						
4	開	講	学	年	1	学年						
10	担当	教員	氏	名	津原 泰史	9	授	業	形	形	講習	
			資	格								
			実	務	経	験	建築設計業務40年					
11	教	科	書	新しい建築の製図								
12	開	講	資	格・検	定	等	建築士等					
13	科	目	の	概	要	製図法の基礎、基本の理解と徹底を第一義として、木造、鉄筋コンクリート建築物の製図練習を行う。						
14	科	目	の	制	定	建築製図の基礎、基本の理解と徹底を目的とする。						
15	科	目	の	必	須	条	製図作業への着手を早めて、限られた時間を有効に使うこと、提出期限の厳守に努めること。					
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	課題提出:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の配分は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:平均的な点数で科目に合格した。(70-70) C:からして認められる点数で科目に合格した。(60-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	1	用具の説明	
										2	製図方法	
										3	線の練習①	
										4	＃②	
										5	＃③	
										6	＃④	
										7	文字の練習①	
										8	＃②	
										9	＃③	
										10	配置図①	
										11	＃②	
										12	＃③	
										13	＃④	
										14	木造平面図①	
										15	＃②	
										16	＃③	
										17	＃④	
										18	＃⑤	
										19	＃⑥	
										20	＃⑦	
										21	＃⑧	
										22	木造立面図①	
										23	＃②	
										24	＃③	
										25	＃④	
										26	木造断面図①	
										27	＃②	
										28	＃③	
										29	＃④	
										30	木造斜射図①	
										31	＃②	
										32	＃③	
										33	＃④	
										34	＃⑤	
										35	＃⑥	
										36	＃⑦	
										37	木造天井図①	
										38	＃②	
										39	＃③	
										40	木造展開図①	
										41	＃②	
										42	木造器具表①	
										43	木造基礎図①	
										44	＃②	
										45	＃③	
										46	木造床図①	
										47	＃②	
										48	＃③	
										49	＃④	
										50	木造小屋図①	
										51	＃②	
										52	＃③	
										53	＃④	
										54	＃⑤	
										55	木造軸組図①	
										56	＃②	
										57	＃③	
										58	＃④	
										59	RC配置図①	
										60	＃②	
										61	RC平面図①	
										62	＃②	
										63	＃③	
										64	＃④	
										65	RC立面図①	
										66	＃②	
										67	＃③	
										68	＃④	
										69	＃⑤	
										70	RC断面図①	
										71	＃②	
										72	＃③	
										73	＃④	
										74	＃⑤	
										75	RC詳細図①	
										76	＃②	
										77	＃③	
										78	＃④	
										79	＃⑤	
										80	＃⑥	
										81	＃⑦	
										82	RC断面リスト①	
										83	＃②	
										84	＃③	
										85	＃④	
										86	RC各種図①	
										87	＃②	
										88	＃③	
										89	＃④	
										90	＃⑤	
										91	RC各種配筋図①	
										92	＃②	
										93	＃③	
										94	＃④	
										95	＃⑤	
										96	＃⑥	
18	参	考	書									

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	測量														
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号														
3	授	業	時	数	7	期		前期														
4	開	講	学	年	8	選	択	・														
						必	修	必修														
10	担	当	氏	名	富田 孝一	9	授	業	形	態	講	義	・	実	習							
			資	格							所	属										
			実	務	経						験	専	門	学	校	講	師	歴	20	年	以	上
11	教	科	書																			
12	関	連	資	格	・	検	定	等														
13	科	目	の	概	要				建築事業は、計画・設計・施工・管理という流れで進められるが、各段階では測量、或いは、その成果品とのかかわりのある作業が行われる。測量は、このうちで施工に関するすべての測量、すなわち、中心線やベンチマックのチェックに始まり、細部設計を行うための測量や、やり型設置、型わく測量などを含み、最終の出来形測量まで、築造物の出来上がりに直接、関係する重要なものである													
14	科	目	の	到	達	目	標		卒業後、就職し、社会生活を行う学生の皆さんが、それぞれの職場や家庭で良き人間づくりの主体者となること。他者に思いやりを持ち、良きリーダーシップをとりつつ生活ができること目的とする。													
15	科	目	の	必	須	条	件		実習は5人1組で行う、いわゆるチーム・プレーである。欠席すると、チームの他のメンバーに迷惑をかけるので欠席しないこと。													
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準			レポート提出:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)								
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	測	量	に	つ	い	て	の	一	般	的	説	明
										②	距	離	測	量	①							
										③	"	②										
										④	角	測	量	①								
										⑤	"	②										
										⑥	ト	ラ	バ	ー	ス	測	量	①				
										⑦	"	②										
										⑧	"	③										
										⑨	水	準	測	量	①							
										⑩	"	②										
										⑪	平	板	測	量	①							
										⑫	"	②										
18	参	考	書																			

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	2級建築士対策講座						
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号						
3	授	業	時	数	7	期		後期						
4	開	講	学	年	8	選	択	・						
						必	修	必修						
10	担	当	氏	名	9	授	業	形	態					
			資	格						講	義			
			実	務								所	属	
経	験													
11	教	科	書	2級建築士集中テキスト										
12	関	連	資	格	・	検	定	等	建築士					
13	科	目	の	概	要	本学院卒業後、まず、受験すると考えられる2級建築士について、学科の受験対策講座を行なう。								
14	科	目	の	到	達	目	標	2級建築士合格を目指す。						
15	科	目	の	必	須	条	件	建築の総合的な理解が求められるため、対策講座以外の授業も復習、確認をおこなう。						
16	成績評価および評価基準			定期テスト:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)										
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	建築計画①			
										②	" ②			
										③	" ③			
										④	建築法規①			
										⑤	" ②			
										⑥	" ③			
										⑦	建築構造①			
										⑧	" ②			
										⑨	" ③			
										⑩	建築施工①			
										⑪	" ②			
										⑫	" ③			
18	参	考	書											

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	ゼミ特論								
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号								
3	授	業	時	数	7	期		前期								
4	開	講	学	年	8	選	択	・								
								必修								
10	担	当	教	員	氏	名	連尾 泰史 坂梨 由生子 富田 孝一 本田 雄二	9	授	業	形	態	演習			
							資						格		所	属
							実						務	経	験	建築設計事務所勤務5年、自営業(建築系デザイン)12年、熊本YMCA学院建築科講師10年(連尾) 商業施設設計、住宅内装企画・コーディネート等30年、oriri mfgで家具ディレクション8年(坂梨) 県立工業高校建築科教諭及び実習教師42年(富田)
11	教	科	書	講師作成資料												
12	関	連	資	格	・	検	定	等								
13	科	目	の	概	要	これまでの学習を基礎として実施する卒業設計の事前段階で、卒業制作の進め方、建築設計の基本的な事柄や表現方法を、3つのコース(建築デザイン・都市デザイン・インテリアデザイン)に分かれて学ぶ。										
14	科	目	の	到	達	目	標	卒業制作にスムーズに取り掛かれるように事前の準備をする。設計することにおいて、事前の調査や準備の大切さを知る。								
15	科	目	の	必	須	条	件	授業時間はもとより、それ以外の時間でも積極的に機会を設け、卒業制作の準備をし、数多くの建築を見学して、学びを深めて欲しい。								
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	課題提出:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ユ	ー	ル	①	各コース説明会					
										②	卒業制作の目的・全体スケジュールの確認					
										③	卒業制作スケジュール作成					
										④	基本的な設計の進め方①					
										⑤	” ②					
										⑥	事前調査・研究①					
										⑦	” ②					
										⑧	” ③					
										⑨	” ④					
										⑩	” ⑤					
										⑪	” ⑥					
										⑫	” ⑦					
18	参	考	書													

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	卒業製作			
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号			
3	授	業	時	数	48	7	期	後期			
4	開	講	学	年	2学年	8	選	択			
							・	必			
							修	必修			
10	担	当	氏	名	9	授	業	形	態		
			資	格						所	属
			実	務							
連尾泰史 坂梨由生子 富田孝一 本田 雄二				演習							
建築設計事務所勤務5年、自営業(建築系デザイン)12年、熊本YMCA学院建築科講師10年(連尾) 商業施設設計、住宅内装企画・コーディネート等30年、oriri mfgで家具ディレクション8年(坂梨) 県立工業高校建築科教諭及び実習教師42年(富田)											
11	教	科	書	講師作成資料							
12	関	連	資	格	・	検	定	等	建築士等		
13	科	目	の	概	2年間の学習の集大成として、卒業制作(建築設計作品)を完成させる。卒業制作は3つのコース(建築デザイン・都市デザイン・インテリアデザイン)に分かれ、独自の方法で表現する。また、最後には卒業制作発表会、卒業制作作品展を開催する。						
14	科	目	の	到	達						
					卒業制作(建築設計作品)を完成させる。 1つの作品を完成させることにより、充実・達成・喜びを感じて欲しい。 プレゼンテーション能力を身に付ける。						
15	科	目	の	必	須						
					条件						
					2年間の集大成の作品であることを理解して、取り組んで欲しい。細部までこだわり、自分の納得できる作品を完成させてもらいたい。						
16	成	績	評	価	お						
					よ						
					び						
					評						
					価						
					基						
					準						
					課題提出:80% 授業態度、出席率:20% 成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A:優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B:申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C:かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D:合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)						
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル		
										①	エスキース・平面計画①
										②	" ②
										③	" ③
										④	" ④
										⑤	" ⑤
										⑥	" ⑥
										⑦	" ⑦
										⑧	" ⑧
										⑨	" ⑨
										⑩	図面・模型の作成①
										⑪	" ②
										⑫	" ③
										⑬	" ④
										⑭	" ⑤
										⑮	" ⑥
										⑯	" ⑦
										⑰	" ⑧
										⑱	" ⑨
										⑲	" ⑩
										⑳	" ⑪
										㉑	" ⑫
										㉒	" ⑬
										㉓	" ⑭
㉔	" ⑮										
㉕	プレゼンテーションデータ作成①										
㉖	" ②										
18	参	考	書								

1	課	程	工業専門	5	科	目	名	宅地建物取引士										
2	学	科	建築科	6	科	目	番	号										
3	授	業	時	数	48	7	期	前期										
4	開	講	学	年	2学年	8	選	択・必										
10	担	当	氏	名	森田 伸幸	9	授	業	形	態	講座							
			資	格			所	属										
			実	務	経		験	不動産流通実務30年以上、熊本YMCA学院で宅建講師として3年、建築資材研究者(日建学院)にて宅建講師5年										
11	教	科	書	わかって合格る宅建士 基本テキスト														
12	関	連	資	格・検	定	等						宅地建物取引士						
13	科	目	の	概	要	国家資格(宅地建物取引士)取得に必要とされる各種法律の理解												
14	科	目	の	到	達	目						標	”宅地建物取引士”取得					
15	科	目	の	必	須	条						件	宅地建物取引士の合格に必要な不可欠な知識を、必要な限度で理解・整理して頭に入れ、問題を解く力にまで高める。					
16	成			績	評	価						お	よ	び	評	価	基	準
													課題提出:80%					
													授業態度、出席率:20%					
													成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。					
													A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80)					
													B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70)					
													C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60)					
													D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	概要							
										②	民法							
										③	民法							
										④	民法							
										⑤	民法							
										⑥	民法							
										⑦	民法							
										⑧	宅建業法							
										⑨	宅建業法							
										⑩	宅建業法							
										⑪	宅建業法							
										⑫	宅建業法							
										⑬	宅建業法							
										⑭	法令上の制限							
										⑮	法令上の制限							
										⑯	法令上の制限							
										⑰	法令上の制限							
										⑱	法令上の制限							
										⑲	法令上の制限							
										⑳	その他の関連知識							
										㉑	その他の関連知識							
										㉒	その他の関連知識							
										㉓	その他の関連知識							
										㉔	その他の関連知識							
18	参	考	書															